

支援隊の活動③ 「情報支援」のかなめ 音訳ボランティア育成

インタッチ＝JBS日本福祉放送は、視覚障害被災者に対して長期的な支援を実施するため、現地で活動している音訳ボランティアグループとネットワークを構築。大船渡市・宮古市・山田町の3団体それぞれに研修会を行い、JBSが持つ音訳技術や録音編集のノウハウを共有した。放送局との協働や防災ラジオの配布にとどまらず、研修会を通して現地ボランティアの音訳スキル向上を図ることで、情報支援のさらなる向上に取り組んだ。

被災地で活動する音訳ボランティアグループ

●せきれい（大船渡市）



昭和63年に設立。視覚障害者に録音図書の貸し出しをする「声の図書館」を運営。また「声の雑誌」の製作・発行も行う。写真左から二人目が、藤村勍子会長。

●宮古音声訳の会（宮古市）



平成5年に設立。「広報みやこ」などの行政情報に加え、地方紙やタウン誌も音訳。会員には視覚障害者もおおり、利用者目線の音訳に取り組む。写真左が、上野政代会長。

●山田町朗読ボランティア（山田町）



昭和63年に設立。「広報やまだ」を音訳したカセットテープを視覚障害者へ届ける。平成23年には「厚生労働大臣表彰」を受賞。写真右から三人目が、佐々木啓子代表。

現地で活動しているボランティアグループの方々を対象に、それぞれの活動内容に沿った研修会（養成講座）を行うため、10月・12月・翌年2月に被災地を訪問した。

●養成講座開催スケジュール

【平成23年10月】

日時：平成23年10月28日

グループ名：せきれい

講座名：「視覚障害者情報支援を目的とする
音訳ボランティア講座 基礎編」

会場：大船渡市総合福祉センター

後援：大船渡市、大船渡市社会福祉協議会
東海新報社

日時：平成23年10月29日

グループ名：宮古音声訳の会（3回の開催
中、第1回目）

講座名：「視覚障害者情報支援を目的とする
音訳ボランティア講座 基礎編」

会場：宮古市総合福祉センター

後援：宮古市社会福祉協議会、宮古コミュニ
ティ放送研究会

【平成23年12月】

日時：平成23年12月11日

グループ名：宮古音声訳の会（3回の開催
中、第2回目）

講座名：「視覚障害者情報支援を目的とする
音訳ボランティア講座②」

会場：宮古市立図書館

後援：宮古市社会福祉協議会、宮古コミュニ
ティ放送研究会



【平成24年2月】

日時：平成24年2月25日

グループ名：山田町朗読ボランティア

講座名：「音訳ボランティア養成講座
音訳・録音編集 編」

会場：山田町中央公民館 視聴覚室

後援：山田町立図書館

日時：平成24年2月26日（日）

グループ名：宮古音声訳の会（3回の開催
中、第3回目）

講座名：「ボランティアスキルアップ講習
会」

会場：宮古市総合福祉センター

後援：宮古市社会福祉協議会、宮古コミュニ
ティ放送研究会

支援隊の活動③ 「情報支援」のかなめ 音訳ボランティア育成 第5回 平成23年 10月 27日～31日

10月28日、せきれい「視覚障害者情報支援を目的とする 音訳ボランティア講座 基礎編」

大船渡市の音訳ボランティアグループ「せきれい」は、録音図書の製作にカセットテープを使用しているが、今後のCD化を見据え、「デジタル録音・編集」をテーマに研修会を実施した。



久しぶりの研修会で活気を帯びる会場。



講義に熱心に耳を傾ける参加者。



会場となった総合福祉センター。

講義の後の実技の時間では、参加者が二つのグループに分かれ、講師の指導のもと、自分たちで録音と編集を行った。多くの参加者が最初は戸惑いを見せていたが、徐々に調子に乗って来る。



左上) 実際に自分でパソコンを操作する参加者たち。

右上) 録音を行う参加者。

左) 専用ソフトを使って、録音した音声を編集する。

10月29日、宮古音声訳の会「視覚障害者情報支援を 目的とする音訳ボランティア講座 基礎編」

宮古市の音訳ボランティアグループ「宮古音声訳の会」とは、三度にわたる研修会を実施。全国的に活動されている音訳指導者の恵美三紀子さんが講師を務め、ボランティアの基本的姿勢から広報紙の読み方にいたるまで幅広い指導が行われた。

研修会では、実技にも力点が置かれた。参加者が一人ずつ音訳し、恵美講師が各人の読みの問題点を指摘。自分の読みの癖などを客観視し、修正する機会となった。



上野政代会長。会員らと共に音訳技術の向上を図る。



挨拶をするインタッチの川越利信代表。



講師の恵美三紀子さん。





1人ずつ音訳を試みる参加者たち。

10月の被災地の様子



津波で破壊されるまで「世界一」を誇った防波堤。宮古市田老地区にて。



3月11日、津波で街がさらわれる直前に撮影した写真がかかげられている。宮古市立鍬ヶ崎小学校にて。



左上) 宮古市田老地区の仮設店舗。食料品店や理髪店などが入る。

右上) 被災した大槌町の学校。

左下) 津波に流された思い出の品々だろうか、記念写真やアルバムが教室に並べられていた。

支援隊の活動③ 「情報支援」のかなめ 音訳ボランティア育成 第6回 平成23年 12月 10日～12日

12月11日、宮古音声訳の会

「視覚障害者情報支援を目的とする音訳ボランティア講座②」

2回目となる宮古音声訳の会の研修会には、市役所職員も参加。「視覚障害者と行政情報」というテーマのもと、行政サイドとの意見交換が行われ、音訳による音声版情報の必要性および重要性の理解を促した。また今後、宮古音声訳の会の音声版広報紙製作に関して、行政サイドからさらなるバックアップをする旨の確約も引き出した。

福祉課の中村課長は、個人情報規制が安否確認の妨げになっているとのボランティアからの発言に対し、「今後は、必要に応じて個人情報を開示し、安否確認を容易にする」旨を約束した。この決断は、全国的にも注目に値する。



研修会に参加した市役所（宮古市福祉課・広報課）の方々。



東京・大阪からもボランティアが参加した（下）。左の2名は東京から、右の3名は大阪から。

支援隊の活動③

「情報支援」のかなめ 音訳ボランティア育成 第7回 平成24年2月24日～26日

2月25日、山田町朗読ボランティア 「視覚障害者情報支援を目的とする音訳ボランティア養成講座 音訳・録音編集編」

山田町の音訳ボランティアグループ「山田町朗読ボランティア」との研修会では、音訳録音編集の指導が行われた。このグループは震災で代表を亡くし存続の危機に見舞われたものの、自分たちを待っている視覚障害者がいるのでは、という思いから、再び活動を開始した。この研修会には、山田町の南に位置する大槌町からも町職員を含む数名のボランティアが参加した。



この日は一面の雪景色に。



山田町立図書館の
桜井俊雄館長。



現在、代表を務める
佐々木啓子さん。



山田町・大槌町それぞれのボランティアグループから、研修会の継続についての希望が寄せられた。



山田町にある仮設住宅を訪問し、視覚障害被災者への取材を行った。

2月26日、宮古音声訳の会 「ボランティアスキルアップ講習会」

宮古音声訳の会との第3回目となる本研修会は、ボランティアのスキルアップを図ることによって、視覚障害者に対する情報支援を安定的に持続できる仕組みづくりを構築しようという目的のもと実施された。



12月・2月の被災地の様子

●12月の被災地



仮設住宅のバリアフリー。宮古市田老地区にて。



陸前高田災害FM（当時）。

●2月の被災地



雪で覆われた仮設住宅。
宮古市田老地区の住民がここで暮らす。

